

長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名		俳優を目指さない人の為の演劇ワークショップ	
日 時	令和7年1月18日（土）	13時00分 開演	
場 所	長久手市公民館研修室		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	小熊ヒデジ（俳優・演出家・プロデューサー。名古屋演劇教室発足。愛知淑徳大学非常勤講師）		
公 演 内 容	俳優を目指さない人の為のワークショップ		
入 場 者 数	27	入場率	90.0%
チケット料金	(前売) 1,000円 (当日) 1,000円		
支 出	委託費	45,000円	
	計	45,000円	
収 入	入場料	27,000円	
	計	27,000円	
回 収 率	60.0%		
アンケート結果	演劇にふれるととてもいい機会になり遊びながら演劇を学べる貴重な機会になった。（市内10代女性） あっという間の4時間で、体も頭も使って充実した時間だった。（市内40代女性） 今後演劇をしたいと思っているので参考になった。（市外20代男性）		
担当者コメント	毎年開催している演劇ワークショップ。今年は休館中のため公民館での開催となった。10代から70代まで幅広い参加者となったものの、かえって双方が刺激しあい終始楽しそうな雰囲気で進められており大盛況となった。インフルエンザが流行していたこともあり当日キャンセルが10名となったため、今後は予約を受ける時点でキャンセルも配慮して対応したい。		





長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	対話型鑑賞ステップアップ講座VOL.2 「より深い鑑賞へ」		
日 時	令和7年2月1日（土）	13:00～17:30	
場 所	リニモテラス公益施設		
事業の種類	普及・啓発事業		
出演者	伊達 隆洋（講師）、鑑賞デモンストレーター 6 名		
公 演 内 容	ニューヨーク近代美術館で開発された「対話型鑑賞」と呼ばれる手法を応用した、エクササイズやワークショップ、アートの鑑賞体験を通して、観察力や傾聴力、思考力、コミュニケーションスキルなどを学ぶ講座。 ※対話型鑑賞とは、ニューヨーク近代美術館で開発された教育プログラム。グループで一つのアート作品をみながら自分の発見や感想、疑問などを共有しながら話し合う、鑑賞者同士のコミュニケーションを通じた鑑賞法として、近年では、美術・教育分野のみならずビジネス、医療分野でも注目されている。		
入 場 者 数	19人	入場率	95.0%
チケット料金	一般2,000円、学生1,000円		
支 出	委託費	300,000円	
	計	300,000円	
収 入	入場料	34,000円	
	計	34,000円	
回 収 率	11.3%		
アンケート結果	なんとなく“対話型鑑賞”ってこんな感じ、と誤りもふくめて思っていたものが良い意味で修正された。（市外、50代女性） 作品から得られる根拠に基づいての鑑賞を繰り返すことで、鍛えられる美術的筋肉があることを知った。（市外、60代女性） 無意識の自分の判断基準についてふり返ることができたように思う。作品や人や自分自身を日頃どう評価しているのか、意識していきたいと感じた。（市外、50代男性）		
担当者コメント	昨年に引き続き、京都芸術大学アート・コミュニケーション研究センターから、所長の伊達隆洋氏を講師に迎え、講座を行った。対話型鑑賞において『良いファシリテーターになるためには、それ以前に良い鑑賞者であるべきである』という考えのもと、鑑賞体験に重きを置いたワークショップ中心の構成であった。今回は深い鑑賞をテーマに、高度な鑑賞技術をもった鑑賞デモンストレーターも交えた鑑賞を行った。表面的な鑑賞からはみえない、深く思考して洗練された対話を体験し、受講者の満足度も非常に高いものとなった。		





長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名		朗読と音楽で紡ぐ名作シリーズ 図書館編 おながくつきおはなし会	
日	時	令和7年2月8日（土）	①11時00分開演 ②14時00分開演
場	所	中央図書館AVルーム	
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	屑屋あず（朗読／演劇系創造スタッフ）、伊藤天音（キーボード／音楽系創造スタッフ）、内田 一晟（パーカッション／音楽系創造スタッフ）		
公 演 内 容	「めっきらもっきらどおんどおん」 作／長谷川 摂子 「ふたりはともだち」 作／アーノルド・ローベル		
入 場 者 数	220		
支 出	委託費		30,000円
	印刷製本費		10,177円
	計		40,177円
収 入			無料公演のため収入なし
	計		0円
回 収 率	0.0%		

アンケート結果 子どもだけではなく親御さんや私のような学生でも楽しめる企画だった（市外、20代女性）
 いつもは集中して聞けない子が、音があるといつもより集中して聞けた（市内、30代男性）
 効果音と照明が本格的で良かった。ありがとう。（市内、80代以上女性）

担当者
コメント

生演奏を添えた朗読をお届けする「朗読と音楽で紡ぐ名作シリーズ」。文化の家休館中のため、中央図書館で開催した。未就学児を持つ親子層をターゲットにし、多くの親子連れが来場した。さらに30代以上の来場者も見られた。来場人数も220名と想定人数を大幅に超えた。イベントは朗読と音楽に加え、照明機器も導入し、来場者からも大変好評であった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	小学校であーと（①東小学校、②長久手小学校）		
日 時	①令和7年2月20日（木）、②令和7年2月21日（金）		
場 所	①長久手市立東小学校 ②長久手市立長久手小学校		
事業の種類	普及・啓発事業		
出演者	スーパー登山部（小田智之（Key.）、Hina（Vo.）、深谷雄一（Dr.））		
公 演 内 容	元創造スタッフ小田智之がプロデュースするバンド「スーパー登山部」による演奏とトーク 【演奏楽曲】スーパー銭湯もある、頂き、意志拾い、風を辿る		
入 場 者 数	東小学校 4年生3クラス99人、長久手小学校 4年生3クラス82人		
支 出	委託費	150,000円	
	計	150,000円	
収 入	計	0円	
回 収 率		0.0%	
アンケート結果	好きなことを続けるとこんなに素晴らしいことに繋がるのかと知った。だから今やってる好きな事をもっと続けようと思った。（児童） 全員音楽に対する気持ちが強いから、こうして今活動をしているんだと思った。（児童） あんなにでっかくて重いキーボードをかついで山に登っているなんてビックリしました。（児童） ピアノの練習が大変で、もう辞めようと思ったけれど、もっと続けようと思った。（児童） 給食の時間になっても、「もっと聴きたい。」といった反応だった。（教員） 授業が進むにつれて、体を動かしてリズムを取る児童が増えていったことが印象的だった。（教員）		
担当者コメント	「であーと」は、文化の家に関わりのあるアーティストたちが、市内小学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。東小学校、長久手小学校公演には、スーパー登山部から、小田智之（Key.）、Hina（Vo.）、深谷雄一（Dr.）が出演。スーパー登山部の楽曲を織り交ぜながら、トークでは登山をしながら山頂で演奏活動を行っていることや、メンバーそれぞれが「好き」をきっかけに音楽を始め、続けているエピソードを語った。「好き」をあきらめず続けることで叶えられる夢があるということが児童にも伝わったようだった。 		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	創造スタッフ企画展「日々の小さなおもろい展」		
日 時	令和7年3月5日（水）～令和7年3月16日（日）	10:00～17：00 (最終日は15：00まで)	
場 所	長久手市中央図書館 ギャラリー		
事業の種類	アートのまち創造事業		
出展者	高野葵（美術系創造スタッフ）		
公 演 内 容	日常生活で起こるクスッと笑えるシーンを描いたイラスト展		
入 場 者 数	-		
支 出	印刷製本費	6,238円	
	計	6,238円	
収 入	入場料	0円	
	計	0円	
回 収 率	0.0%		
アンケート結果	・ゆる～くておもろい！ お散歩次いでにくすっとなごんだ。（市内、10代女性） ・子どもがよろこんで見ていた。（市外、40代男性） ・新聞で見てぜひ来たいと思った。日常あるあるがほっこりして絵がとてもかわいい。（市内、60代女性）		
担当者コメント	美術系創造スタッフの高野葵による卒業展。文化の家の中でもテーブルゲームなどを使って日常が少し楽しくなるような仕掛けをしてきた彼女の集大成として、日常に起こる小さなおもろいをテーマにしたイラスト展となった。図書館のギャラリーで実施したが、展示企画のなかではアンケートも多く集まり、展示を見て癒されたという意見が多かった。		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名		リニモテラスジャズライブ	
日 時	令和7年3月8日（土）	19時00分 開演	
場 所	リニモテラス		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	伊藤天音（電子ピアノ）、北條 弘大（ベース）、崎田 治孝（ドラム）		
公 演 内 容	今回は文化の家ではなく、リニモテラスに場所を移し、夜の時間帯に、飲み物や食事を楽しみながら、気軽に楽しめる音楽イベントとして毎月開催することにより、家族、友人とともに地域のコミュニティーを広げてもらう。文化の家音楽系創造スタッフである伊藤天音さんとベースの北條さん、ドラムの崎田さんによる、ジャズを気軽に楽しめる選曲でお届けする。		
入 場 者 数	206		
支 出	委託費	30,000円	
	チラシ印刷費	18,865円	
	計	48,865円	
収 入	入場料	0円	
	計	0円	
アンケート結果	身近な場所でやってくれて、日常のよい息抜きになって、うれしかった。（市内、40代女性） 素敵なおところ。ジャズは聴くことがなかったが、良かった。また来たい。（市内、40代女性） 定期的にナイトコンサートをリニモテラスで実施してほしいと思った。（市外、30代男性） お客さんが多すぎて、演奏してる場所が遠くて見えなかったのが残念。（市内、40代女性）		
担当者コメント	文化の家が工事休館中であることが理由なのか定かではないが、予想を大幅に超える来場者数となり、会場はとても混雑した。後方のお客さまからは演奏者が見えないくらいになってしまったが、苦情などはほぼなくお客さまに楽しんでいただけた。文化や芸術の場を求めている住民の方がたくさんいることがわかった。		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	小学校であーと（①市が洞小学校、②北小学校）		
日 時	①市が洞小学校 令和7年3月11日（火）、 ②北小学校 令和7年3月12日（水）		
場 所	①長久手市立市が洞小学校 ②長久手市立北小学校		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	林友里菜（創造スタッフ）		
公演内容	舞踊系創造スタッフによるダンスアウトリーチ 【内容】 ・林氏によるコンテンポラリーダンス披露 ・「自分の名前を体で書いてみよう」 ・「ダンスに感情を乗せてみよう」		
入 場 者 数	市が洞小学校 4年生5クラス165人、西小学校 4年生3クラス89人		
支 出	委託費	70,000円	
	計	70,000円	
収 入	計	0円	
回 収 率	0.0%		

アンケート結果

感情を乗せて自由におどることは、とても楽しいことだと気がついた。（児童）

ダンスって難しい感じがしたけれど、意外と自由で良いんだと思った。（児童）

ダンスは嫌いだったけど、少し興味を持ちました。（児童）

先生のダンスが上手くなめらかだった。（児童）

身体表現（ダンス）を児童たちが実際に体験できたのが良かった。（教員）

教師側が予想していたよりもダンスを楽しみ、いきいきと活動していた。（教員）

担当者
コメント

「であーと」は、文化の家に関わりのあるアーティストたちが、市内小学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。市が洞小学校・北小学校公演には、創造スタッフの林友里菜氏が出演。ダンスでの小学校であーとは今回が初の試みであった。まずは流行りのJPOPに乗せてダンスを披露することで児童の心を掴み、その後、手や足、ひじなどを使って「自分の名前をひらがなで宙に書いてみよう」というところから、児童にコンテンポラリーダンスの楽しさを伝えていた。初めは少し照れていた児童も、だんだんと笑顔で大きく踊るようになっていったのが印象的だった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	小学校であーと（①南小学校、②西小学校）		
日 時	①令和7年3月13日（木）、 ②令和7年3月14日（金）		
場 所	①長久手市立南小学校 ②長久手市立西小学校		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	尾上一葉(Fl.)、井上慎介(Ob.)、庄司直央(Cl.)、安間花鶏(Fg.)、菊池ことり(Hr.)		
公 演 内 容	木管五重奏によるクラシック音楽のアウトリーチ 【演奏楽曲】花のワルツ（P.I.チャイコフスキー）、山の音楽家じゅんばん協奏曲（石川亮太編曲）、3つの小品 第1楽章、第2楽章、第3楽章（J.イベール）		
入 場 者 数	南小学校 4年生4クラス116人、西小学校 4年生3クラス89人		
支 出	委託費	120,000円	
	計	120,000円	
収 入	計	0 円	
回 収 率	0.0%		
アンケート結果	どの楽器も全て素敵だったが、フルートの高い「きらきら」した音色がとても素敵で、木管五重奏をまた聞いてみたい。（児童）		
	オーボエ、ファゴット、クラリネットはとても細い吹き口で吹いていることがわかってすごいと思った。（児童）		
	ホルンの音を聞いた事がなかったけれど、すごくいい音だと気づいた。（児童）		
	高い音と包み込むような低い音もあって面白かった。（児童）		
	教室に帰ってから何人もの子どもが楽器のことについて話していた。（教員）		
担当者コメント	演者は学生さんと聞いていたが、とてもわかりやすく、熱心に子供達に話していた。（教員）		
	「であーと」は、文化の家に関わりのあるアーティストたちが、市内小学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。南小学校、西小学校公演には、愛知県立芸術大学の学部生であり、「室内楽の楽しみ」にも出演した尾上一葉(Fl.)、井上慎介(Ob.)、庄司直央(Cl.)、安間花鶏(Fg.)、菊池ことり(Hr.)が登場した。音楽の楽しさ、それぞれの楽器の魅力を伝えることをテーマに据え、ランスルーや打合せを何度も重ね、構成を組み立てていった。クイズや、ホースや空き瓶を用いた楽器の仕組みを説明などを交えながら各楽器の特徴をわかりやすく説明した。曲が始まる前にその曲の聴きどころを説明することで、児童はより注意深く演奏に耳を傾けているように見えた。		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名		創造スタッフ屑屋あず企画 コント源泉掛け流し	
日 時	令和7年3月15日（土）	①18時00分開演	
	令和7年3月16日（日）	②11時00分開演 ③16時00分開演	
場 所	長久手市福祉の家 集会室		
事業の種類	鑑賞・体験事業		配信 なし
出演者	屑屋あず（文化の家創造スタッフ）、うめだ（老若男女未来学園）、内田一晟（文化の家創造スタッフ）、N井タロ、棗、水野優斗（劇団わに社）、水上涼（愛知淑徳大学演劇研究会「月とカニ」）、宮脇真渚（劇団ハイエナ）、安元勇人（ハコトバコ）		
公演内容	「セッション」、「観覧車」、「マッチングアプリ」、「コンビニ」 作：屑屋あず（演劇系創造スタッフ）		
入 場 者 数	101	入場率	67.3%
チケット料金	（前売）フレンズ・一般500円（要予約） （当日）フレンズ・一般500円（要予約）		
支 出	委託費	30,000円	
	印刷製本費	25,058円	
	出演費	120,000円	
	計	175,058円	
収 入	入場料	46,500円	
	計	46,500円	
回 収 率	32.1%		

アンケート結果 宴芸っぽい会場でのコントというシチュエーションがとても良かった（市外、40代男性）
どのコントもクスッと笑えてとても楽しく観ることができた（市内、60代女性）
いずれも素晴らしいコントで、とても楽しい時間を過ごすことができた（市外、20代無回答）

担当者
コメント

創造スタッフ屑屋あずによる初の単独公演。コントの短編集のため気軽に見やすかったにも関わらず、作品・役者ともに大変クオリティが高く高評価だった。また、長久手温泉の隣の立地を生かした内容、チラシデザインは多くの年齢層に響き、小学生からお年寄り、温泉帰りにふらりと寄ってくれたお客さんもいた。ござらっせの駐車場が混雑し、開場時間に間に合わなかった方がいらしたり、場所をそもそも間違えてしまったトラブルも。休館中の対応として今後生かしたい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名		東西聴きくらべ落語会温泉の巻 春風亭一花・桂九ノ一ふたり会	
日 時	令和7年3月27日（木）	14時00分 開演	
場 所	長久手市福祉の家集会室		
事業の種類	鑑賞・体験事業		
出演者	春風亭一花（しゅんぷうてい いちはな） 桂九ノ一（かつら くのいち）		
公 演 内 容	味噌豆 一花 はてなの茶碗 九ノ一 中入り 紙入れ 九ノ一 子別れ 一花		
入 場 者 数	87	入場率	87.0%
チケット料金	（前売）1,000円 （当日）1,000円		
支 出	委託費	330,000円	
	計	330,000円	
収 入	入場料	87,000円	
	計	87,000円	
回 収 率	26.4%		
アンケート結果	会場が近いのでありがたい、時間もちょうどよくこのような催しを続けてほしい（市内、80代女性） 平日の午後なのに人がいっぱいでした（市外、70代男性） 落語を好きになったきっかけが文化の家公演だった。休館中も続けてくれてありがとう（市内、30代女性）		
担当者コメント	文化の家が改修工事で休館中のため、福祉の家で出張落語会を開催した。江戸落語と上方落語の聴きくらべということで、江戸は春風亭一花、上方は桂九ノ一が長久手初登場となる。九ノ一は上方落語らしく勢いのある演目で会場を沸かし、それに対し一花は大人な人情噺で観客の涙を誘った。次回を楽しみにしていると帰りのお客から多く声を掛けられていたのが印象的だった。会場の席数に制限があり、もっと多くの観客を入れることができなかったのは残念であった。		





長久手市文化の家 自主事業報告書

公 演 名	文化の家野外劇場～vol.1春～		
日 時	令和7年3月29日（土）	12:00～18:30	
場 所	長久手市文化の家 芝生広場（屋外駐車場）		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	【音楽】石川貴憲（サククス）、川地立真（サククス）、大嶋漢（サククス）、柳田恵里（サククス）、鈴木豊大（ドラム） 【創造スタッフ】内田一晟（打楽器）、伊藤天音（鍵盤・作曲）、屑屋あず（朗読） 【演劇】喜劇のヒロイン 【美術】小林大地、橋寛憲、小林奈津美		
公 演 内 容	野外ライブ、青空リーディング、喜劇のヒロイン『ドライ・ドライブ・ライブ』（作・演出：新宮虎太郎）、トワイライトダンス、体験型段ボールアート、すてきなくものす、クリエイターズショップ、ながくてマルシェ		
入 場 者 数	834		
支 出	音楽・演劇・美術WS・会場設営	委託費	570,000円
		計	570,000円
収 入		入場料	0円
アンケート結果	「朗読と音楽」での音楽がオリジナルであることが良かった。（市外、50代女性） 食べ物だけでなく金工や和紙などの作るワークショップがあるのが面白かった（市内、30代女性） 「喜劇のヒロイン（演劇）」が野外で、しかも無料で観れる贅沢な内容だった（市外・40代・男性）		
担当者コメント	工事休館中の芝生広場を活用し、はじめての「野外劇場」を開催。音楽、ながくてマルシェの他、野外演劇を取り入れ、子ども向けワークショップに訪れた親子が演劇に触れるなど、偶発的な出会いが各所に見られる企画となった。秋の野外演劇祭も含め、開館後にも繋げていくことによって文化の家の総合的な魅力を市民に伝える場となることを期待する。		

